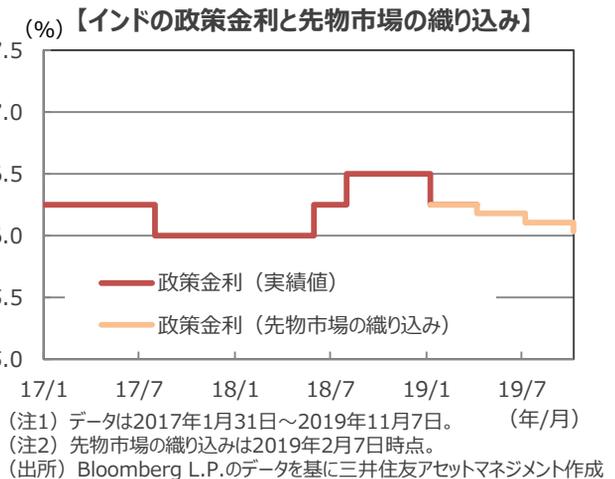
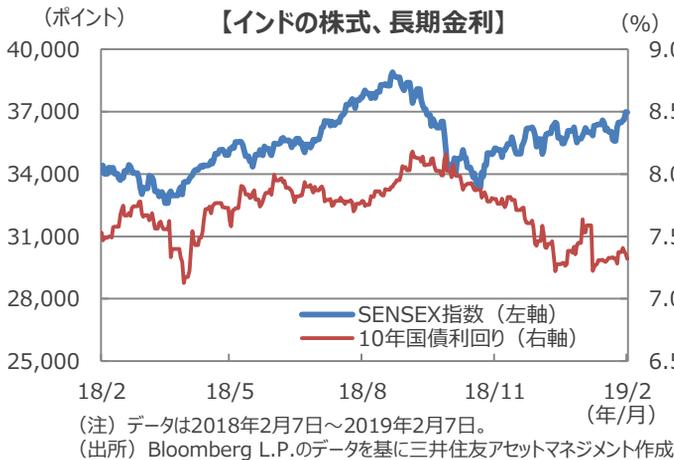


今日のトピック 好調なインド株式市場、利下げも追い風（2019年2月前半） 追加利下げ期待は株式市場に追い風、総選挙には注意



ポイント1 政策金利を0.25%引き下げ 追加利下げ期待も株価の好材料

- インド株式市場は昨年10月以降、緩やかながら堅調に上昇しています。2月7日には、インド準備銀行（RBI）が利下げ（▲0.25%）を行った他、今後の金融政策の姿勢について「引き締め」から「中立」へと変更しました。RBIはインフレ見通しも引き下げ、年内はインフレがターゲットを下回る予想となったことから市場には追加緩和期待が残っており、今後のインド株式市場を支える材料と言えます。

ポイント2 今年4月から始まる来年度予算案は総選挙を強く意識した内容 農民や中間所得層にアピールした予算案

- 一方、政府は2月1日に来年度の政府予算案を発表しました。中間所得層の税負担軽減のため、所得税の非課税限度額を従来の倍に引き上げたほか、農業・農民福祉省の予算額を今年度の約2倍とするなど、来年度予算案は今年4月～5月に予定される総選挙に向けて、農民や中間所得層にアピールした内容と言えます。来年度の財政赤字の対GDP比は▲3.4%と、今年度の着地予想から横ばいとなりました。

今後の展開 追加利下げ期待は株式市場に追い風、総選挙には注意

- インドでは堅調な景気と落ち着いたインフレにより、株式市場にとって好ましい環境が続いていますが、これに上述の利下げ期待が加わり、追い風が強まっていると考えられます。通貨ルピーもインフレや原油価格の落ち着きを受けて安定しています。短期的なリスクは5月までに実施される予定の総選挙です。事前調査によると与党・インド人民党が過半数を獲得するのは難しい状況となっています。ただし、総選挙で現与党が敗れたとしても、インドの中長期的な成長性は依然として高いと考えられます。

ここも
チェック! 2019年 2月 5日 アジア・マーケット・マンズリー（2019年2月）
2018年12月12日 インド中銀『パテル総裁』が辞任、政府と中銀が対立

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。